(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7318452号
(P7318452)

(45)発行日　令和5年8月1日(2023.8.1)

(24)登録日　令和5年7月24日(2023.7.24)

(51)国際特許分類

		FI		
Ｂ６５Ｄ	*5/66 (2006.01)*	Ｂ６５Ｄ	5/66	３０１Ｈ
Ｂ６５Ｄ	*5/10 (2006.01)*	Ｂ６５Ｄ	5/10	Ｌ

請求項の数　3　（全11頁）

(21)出願番号　特願2019-173698(P2019-173698)
(22)出願日　令和1年9月25日(2019.9.25)
(65)公開番号　特開2021-50017(P2021-50017A)
(43)公開日　令和3年4月1日(2021.4.1)
審査請求日　令和4年2月25日(2022.2.25)

(73)特許権者　000122298
王子ホールディングス株式会社
東京都中央区銀座４丁目７番５号
(74)代理人　110001807
弁理士法人磯野国際特許商標事務所
(72)発明者　夏川 準司
京都府京都市南区西九条南田町６１番地
森紙業株式会社内
(72)発明者　中路 哲也
京都府京都市南区西九条南田町６１番地
森紙業株式会社内
審査官　永田 勝也

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　包装箱

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、

前記胴部の上側または下側の開口部に設けられた蓋部と、を備え、

前記蓋部は、

前側の前記端壁に連設された前部フラップと、

後側の前記端壁に連設された後部フラップと、

左右の前記側壁に連設された第一側部フラップおよび第二側部フラップと、を備え、

前記前部フラップには、第一差込口および第二差込口が左右方向に間隔を空けて形成されており、

前記第一側部フラップの前部は、前記前部フラップの外面に重ねられ、

前記後部フラップの側部は、前記第一側部フラップの外面に重ねられ、

前記第二側部フラップの後部は、前記後部フラップの外面に重ねられ、

前記第二側部フラップの前部は、前記前部フラップの外面に重ねられており、

前記第一側部フラップに形成された第一支持部は、前記前部フラップの前記第一差込口に差し込まれて、前記前部フラップの内面に係止され、

前記第二側部フラップに形成された第二支持部は、前記前部フラップの前記第二差込口に差し込まれて、前記前部フラップの内面に係止されており、

前記第一支持部の前後方向の幅は、前記第二支持部の前後方向の幅よりも大きく形成されていることを特徴とする包装箱。

【請求項２】
請求項１に記載の包装箱であって、
前記胴部は、前後の端壁と、左右の側壁と、少なくとも一つの傾斜壁と、を有し、
前記傾斜壁は、隣り合う前記端壁と前記側壁との間に形成されていることを特徴とする包装箱。
【請求項３】
請求項１または請求項２に記載の包装箱であって、
前記第一側部フラップおよび前記第二側部フラップには、前後方向に延びる罫線が形成されていることを特徴とする包装箱。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、包装箱に関する。
【背景技術】
【０００２】
包装箱としては、前後の端壁および左右の側壁を有する角筒状の胴部と、胴部に形成された上蓋部および下蓋部と、を備えているものがある（例えば、特許文献１参照）。従来の包装箱の上蓋部は、前後の端壁に連設された前後の端部フラップと、左右の側壁に連設された左右の側部フラップと、を備えている。そして、端部フラップの前後の支持部が、前後の端部フラップの差込口にそれぞれ差し込まれている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【文献】実公昭５８－３４００８号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
前記した従来の包装箱では、内容物の上面と側部フラップとの間に空間があると、側部フラップの支持部を端部フラップの差込口に差し込むときに、端部フラップが胴部の内側に沈み込むため、側部フラップを端部フラップに連結し難いという問題がある。
【０００５】
本発明は、前記した問題を解決し、蓋部を組み立てるときの作業効率を向上させることができる包装箱を提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
前記課題を解決するため、本発明は、包装箱であって、前後の端壁および左右の側壁を有する筒状の胴部と、前記胴部の上側または下側の開口部に設けられた蓋部と、を備えている。前記蓋部は、前側の前記端壁に連設された前部フラップと、後側の前記端壁に連設された後部フラップと、左右の前記側壁に連設された第一側部フラップおよび第二側部フラップと、を備えている。前記前部フラップには、第一差込口および第二差込口が左右方向に間隔を空けて形成されている。前記第一側部フラップの前部は、前記前部フラップの外面に重ねられ、前記後部フラップの側部は、前記第一側部フラップの外面に重ねられている。前記第二側部フラップの後部は、前記後部フラップの外面に重ねられ、前記第二側部フラップの前部は、前記前部フラップの外面に重ねられている。前記第一側部フラップに形成された第一支持部は、前記前部フラップの前記第一差込口に差し込まれて、前記前部フラップの内面に係止されている。前記第二側部フラップに形成された第二支持部は、前記前部フラップの前記第二差込口に差し込まれて、前記前部フラップの内面に係止されている。前記第一支持部の前後方向の幅は、前記第二支持部の前後方向の幅よりも大きく形成されている。
【０００７】

本発明の包装箱の蓋部を組み立てるときは、前部フラップを胴部の内側に折り曲げた後に、第一側部フラップを胴部の内側に折り曲げる。そして、第一側部フラップの第一支持部を前部フラップの第一差込口に差し込んで、第一支持部を前部フラップの内面に係止させる。このとき、作業者は、前部フラップを一方の手で支えながら、他方の手で支持部を差込口に差し込むことができる。

さらに、後部フラップを胴部の内側に折り曲げて、第一側部フラップの外面に後部フラップを重ねた後に、第二側部フラップを胴部の内側に折り曲げる。そして、第二側部フラップの第二支持部を前部フラップの第二差込口に差し込んで、第二支持部を前部フラップの内面に係止させる。このとき、前部フラップは、第一側部フラップに支持されているため、第二支持部を第二差込口に差し込むときに、前部フラップが胴部の内側に沈み込むのを防ぐことができる。

したがって、本発明の包装箱では、蓋部を組み立てるときに、各フラップを安定させることができるため、各フラップを容易に連結できる。

また、第二側部フラップの前部を前部フラップの下面側に差し込まなくても、四枚のフラップを連結できる。

また、前部フラップに第一差込口および第二差込口が形成されているため、作業者は胴部の前側から蓋部を組み立て易くなっている。これにより、蓋部を組み立てるときに、作業者が胴部の向きを変える必要がなくなる。

【０００８】

前記した包装箱において、前記胴部は、前後の端壁と、左右の側壁と、少なくとも一つの傾斜壁と、を有し、前記傾斜壁が隣り合う前記端壁と前記側壁との間に形成されている多角筒状に形成してもよい。

多角筒状の胴部は蓋部を組み立てる前の状態において形状が安定し難いが、本発明の包装箱では、蓋部を組み立てるときに、蓋部の各フラップを安定させることができるため、胴部が多角筒状でも蓋部を容易に組み立てることができる。

【０００９】

前記した包装箱において、前記第一側部フラップおよび前記第二側部フラップには、前後方向に延びる罫線を形成することが好ましい。

この構成では、側部フラップの支持部を前部フラップの差込口に差し込むときに、側部フラップを罫線において山折りに折り曲げた後に、側部フラップを平坦に伸ばしていくことで、側部フラップの角部を浅い挿入角度で差込口に差し込むことができる。これにより、側部フラップの支持部を前部フラップの差込口に差し込み易くなる。

【発明の効果】

【００１０】

本発明の包装箱では、蓋部を組み立てるときの作業効率を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【００１１】

【図１】本発明の本実施形態に係る包装箱を前方右上から見た斜視図である。

【図２】本発明の本実施形態に係る包装箱のブランクシートを示した図である。

【図３】本発明の本実施形態に係る包装箱において、前部フラップを閉じた状態を前方右上から見た斜視図である。

【図４】本発明の本実施形態に係る包装箱において、第一側部フラップを閉じる態様を前方右上から見た斜視図である。

【図５】本発明の本実施形態に係る包装箱において、第二側部フラップを閉じる態様を前方右上から見た斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１２】

本発明の実施形態について、適宜図面を参照しながら詳細に説明する。

以下の説明において、前後左右方向とは、本実施形態の包装箱を説明する上で便宜上設定したものであり、包装箱の構成や使用状態を限定するものではない。

【００１３】
本実施形態の包装箱１は、図１に示すように、六角筒状に形成された胴部１０と、胴部１０の下側の開口部を閉塞している下蓋部２０と、胴部１０の上側の開口部に設けられた上蓋部３０と、を備えている。
【００１４】
包装箱１は、図２に示すように、一枚の段ボール製のシートを切り抜いたブランクシートＳを各罫線において山折りまたは谷折りすることで形成される。図２に示すブランクシートＳは内面側が見えるように配置されている。
ブランクシートＳの各罫線（折線）は、ブランクシートＳの表面を押し込んで形成された線状の溝（押罫）である。
なお、罫線に断続的な切れ込みを形成してもよい。このようにすると、罫線においてブランクシートＳを折り曲げ易くなる。
【００１５】
胴部１０は、図３に示すように、前後一対の端壁１１，１２と、左右一対の側壁１３，１４と、を備えている。前後の端壁１１，１２および左右の側壁１３，１４は、側面視において四角形に形成されている。
また、胴部１０は、隣り合う前側の端壁１１と右側の側壁１４との間に形成された右前の傾斜壁１６と、隣り合う後側の端壁１２と左側の側壁１３との間に形成された左後の傾斜壁１６と、を備えている。胴部１０の上面および下面には、平面視で六角形の開口部が形成されている。
【００１６】
二つの傾斜壁１６，１６は、胴部１０の右前の角部および左後の角部に形成されている。傾斜壁１６は、側面視において細長い長方形に形成されている。両傾斜壁１６，１６は同じ形状である。両傾斜壁１６，１６は、端壁１１，１２および側壁１３，１４に対して傾斜している。
本実施形態では、左後の傾斜壁１６の左縁部に接合片１５が連設されている（図２参照）。接合片１５は、左側の側壁１３の内面に接合されている。
【００１７】
ブランクシートＳ（図２参照）を各罫線で折り曲げつつ、接合片１５を左側の側壁１３の内面に接合すると、前側の端壁１１、後側の端壁１２、左側の側壁１３、右側の側壁１４および二つの傾斜壁１６，１６によって、平面視で六角形の筒状の胴部１０が形成される。
【００１８】
下蓋部２０は、左右の側壁１３，１４の下縁部に連設された左右一対の内フラップ２１，２１と、前後の端壁１１，１２の下縁部に連設された前後一対の外フラップ２２，２２と、を有している。
下蓋部２０は、左右の内フラップ２１，２１の下面に前後の外フラップ２２，２２が重ね合わされており、両外フラップ２２，２２の先端縁部が突き合わされることで、胴部１０の下側の開口部が閉塞されている。
【００１９】
上蓋部３０は、図１に示すように、前側の端壁１１に連設された前部フラップ３１と、後側の端壁１２に連設された後部フラップ３２と、を備えている。また、上蓋部３０は、左側の側壁１３に連設された第一側部フラップ３３と、右側の側壁１４に連設された第二側部フラップ３４を備えている。
【００２０】
前部フラップ３１は、図３に示すように、前側の端壁１１の上縁部に連設されている。前部フラップ３１は、胴部１０の上側の開口部の前部を覆うものである。
前部フラップ３１の右縁部は、右側の側壁１４の内面と、右前の傾斜壁１６の内面と、に沿って形成されている。また、前部フラップ３１の左縁部は、左側の側壁１３の内面に沿って形成されている。

前部フラップ３１が胴部１０の上側の開口部に入り込んだ状態では、前部フラップ３１の右縁部が右側の側壁１４の内面および右前の傾斜壁１６の内面に接するとともに、前部フラップ３１の左縁部が左側の側壁１３の内面に接している。

【００２１】

前部フラップ３１には、第一差込口４１および第二差込口４２が左右方向に間隔を空けて形成されている。第一差込口４１および第二差込口４２は、前後方向に延びる開口部である。

第一差込口４１は、前部フラップ３１の左部に形成されている。第一差込口４１の右縁部は、中央部が右方に向けて突出するように湾曲している。

第一差込口４１は、蓋板４５によって塞がれている。蓋板４５の左縁部は罫線を介して前部フラップ３１に連設されている。蓋板４５の前後の縁部および右縁部は、前部フラップ３１から切り離されている。

【００２２】

第二差込口４２は、前部フラップ３１の右部に形成されている。第二差込口４２の左縁部は、中央部が左方に向けて突出するように湾曲している。

第二差込口４２は、蓋板４５によって塞がれている。蓋板４５の左縁部は罫線を介して前部フラップ３１に連設されている。蓋板４５の前後の縁部および左縁部は、前部フラップ３１から切り離されている。

【００２３】

後部フラップ３２は、図１に示すように、後側の端壁１２の上縁部に連設されている。後部フラップ３２は、胴部１０の上側の開口部の後部を覆うものである。本実施形態では、前部フラップ３１の先端縁部と、後部フラップ３２の先端縁部とが間隔を空けて配置されている。

【００２４】

後部フラップ３２の左部は、第一側部フラップ３３の後部の上面に重ねられている。また、後部フラップ３２の右部の上面には、第二側部フラップ３４の後部が重ねられている。このように、後部フラップ３２は、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４に対して上下に交差している。

【００２５】

第一側部フラップ３３は、左側の側壁１３の上縁部に連設されている。第一側部フラップ３３の前部は、前部フラップ３１の左部の上面に重ねられている。また、第一側部フラップ３３の後部の上面には、後部フラップ３２の左部が重ねられている。このように、第一側部フラップ３３は、前部フラップ３１および後部フラップ３２に対して上下に交差している。

【００２６】

第一側部フラップ３３の下面には、前後方向に延びる罫線Ｌ１が形成されている（図２参照）。罫線Ｌ１は、第一側部フラップ３３の前後の側縁部に亘って形成されている。罫線Ｌ１は、第一側部フラップ３３の基端縁部に平行して形成されている。また、罫線Ｌ１は、第一側部フラップ３３の左右方向の中央部よりも僅かに先端側に配置されている。

なお、本実施形態の各図では、罫線Ｌ１を外面側にも図示することで、罫線Ｌ１の構成を分かり易く示している。

【００２７】

第一側部フラップ３３の先端部の前部には、第一支持部５１が形成されている。第一支持部５１は、罫線Ｌ１よりも右側に形成されており、右方に向けて突出している。第一支持部５１の前縁部は、第一側部フラップ３３の前縁部であり、第一支持部５１の後縁部はスリット５１ａによって第一側部フラップ３３から切り離されている。

第一支持部５１は、前部フラップ３１の第一差込口４１に上側から差し込まれており（図４参照）、前部フラップ３１の下面に係止されている。

【００２８】

第一側部フラップ３３の先端縁部の中央部には、半円形状に窪んだ指掛け部３５が形成

されている。指掛け部３５は、前部フラップ３１の先端縁部と後部フラップ３２の先端縁部との間に配置される。

【００２９】

第二側部フラップ３４は、右側の側壁１４の上縁部に連設されている。第二側部フラップ３４の前部は、前部フラップ３１の右部の上面に重ねられている。また、第二側部フラップ３４の後部は、後部フラップ３２の右部の上面に重ねられている。

【００３０】

第二側部フラップ３４は、第一側部フラップ３３と左右対称な構成である。第二側部フラップ３４の下面にも罫線Ｌ１が形成されている。また、第二側部フラップ３４の先端縁部にも指掛け部３５が形成されている。

第二側部フラップ３４の先端部の前部に形成された第二支持部５２は、罫線Ｌ１よりも左側に形成されており、左方に向けて突出している。第二支持部５２の前縁部は、第二側部フラップ３４の前縁部であり、第二支持部５２の後縁部はスリット５２ａによって第二側部フラップ３４から切り離されている。

第二支持部５２は、前部フラップ３１の第二差込口４２に上側から差し込まれており、前部フラップ３１の下面に係止されている。

【００３１】

次に、包装箱１の上蓋部３０を組み立てる手順について説明する。

まず、図３に示すように、前部フラップ３１を前側の端壁１１に対して胴部１０の内側に折り曲げる。

続いて、図４に示すように、第一側部フラップ３３を左側の側壁１３に対して胴部１０の内側に折り曲げるとともに、第一側部フラップ３３を罫線Ｌ１において山折りに折り曲げる。このようにすると、第一側部フラップ３３の第一支持部５１が、前部フラップ３１の第一差込口４１の左側に配置される。

【００３２】

山折りにした第一側部フラップ３３を平坦に伸ばすと、図５に示すように、第一支持部５１が第一差込口４１に対して左方から差し込まれる。これにより、第一支持部５１が前部フラップ３１の下面側に入り込み、第一支持部５１が前部フラップ３１の下面に係止される。また、第一側部フラップ３３の前部が前部フラップ３１の左部の上面に重なる。

【００３３】

続いて、後部フラップ３２を後側の端壁１２に対して胴部１０の内側に折り曲げる。これにより、後部フラップ３２の左部が第一側部フラップ３３の後部の上面に重なる。

さらに、第二側部フラップ３４を右側の側壁１４に対して胴部１０の内側に折り曲げるとともに、第二側部フラップ３４を罫線Ｌ１において山折りに折り曲げる。このようにすると、第二側部フラップ３４の第二支持部５２が、前部フラップ３１の第二差込口４２の右側に配置される。

【００３４】

山折りにした第二側部フラップ３４を平坦に伸ばすと、図１に示すように、第二側部フラップ３４の第二支持部５２が第二差込口４２に対して右方から差し込まれる。これにより、第二支持部５２が前部フラップ３１の下面側に入り込み、第二支持部５２が前部フラップ３１の下面に係止される。また、第二側部フラップ３４の前部が後部フラップ３２の右部の上面に重なるとともに、第二側部フラップ３４の後部が前部フラップ３１の右部の上面に重なる。

【００３５】

このようにして、前部フラップ３１、第一側部フラップ３３、後部フラップ３２および第二側部フラップ３４を順次に重ねて連結することで、上蓋部３０が形成される。

【００３６】

なお、上蓋部３０を開封するときには、作業者は、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４の指掛け部３５，３５に指を掛けて、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４を引き上げる。これにより、第一側部フラップ３３および第二側部フラッ

プ３４の第一支持部５１および第二支持部５２が、前部フラップ３１の第一差込口４１および第二差込口４２から引き抜かれる。このようにして、前部フラップ３１、第一側部フラップ３３、後部フラップ３２および第二側部フラップ３４の連結を解除して、上蓋部３０を開封することができる。

本実施形態の包装箱１では、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４の指掛け部３５，３５が前部フラップ３１と後部フラップ３２との間に配置されているため、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４を引き上げ易くなっている。

【００３７】

以上のような包装箱１では、図４に示すように、第一側部フラップ３３の第一支持部５１を前部フラップ３１の第一差込口４１に差し込むときに、作業者は、前部フラップ３１を一方の手で支えながら、他方の手で第一支持部５１を第一差込口４１に差し込むことができる。

また、図５に示すように、第二側部フラップ３４の第二支持部５２を前部フラップ３１の第二差込口４２に差し込むときには、前部フラップ３１が第一側部フラップ３３に支持されているため、前部フラップ３１が胴部１０の内側に沈み込むのを防ぐことができる。

【００３８】

このように、本実施形態の包装箱１では、図１に示すように、上蓋部３０を組み立てるときに、前部フラップ３１、後部フラップ３２、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４を安定させて容易に連結できる。

また、第二側部フラップ３４の前部を前部フラップ３１の下面側に差し込まなくても、四枚の前部フラップ３１、後部フラップ３２、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４を連結できる。

また、前部フラップ３１に第一差込口４１および第二差込口４２が形成されているため、作業者は胴部１０の前側から上蓋部３０を組み立て易くなっている。これにより、上蓋部３０を組み立てるときに、作業者が胴部１０の向きを変える必要がなくなる。

したがって、本実施形態の包装箱１では、上蓋部３０を組み立てるときの作業効率を向上させることができる。

【００３９】

図３に示すように、多角筒状の胴部１０は、上蓋部３０を組み立てる前の状態において形状が安定し難い。本実施形態の包装箱１では、上蓋部３０を組み立てるときに、前部フラップ３１、後部フラップ３２、第一側部フラップ３３および第二側部フラップ３４を安定させることができるため、胴部１０が多角筒状でも上蓋部３０を容易に組み立てることができる。

【００４０】

本実施形態の包装箱１では、図４に示すように、第一側部フラップ３３の第一支持部５１を前部フラップ３１の第一差込口４１に差し込むときに、第一側部フラップ３３を山折りに折り曲げる。その後、第一側部フラップ３３を平坦に伸ばしていくことで、第一側部フラップ３３の第一支持部５１を浅い挿入角度で第一差込口４１に差し込むことができる。これにより、第一側部フラップ３３の第一支持部５１を前部フラップ３１の第一差込口４１に差し込み易くなる。

同様に、図５に示すように、第二側部フラップ３４の第二支持部５２を前部フラップ３１の第二差込口４２に差し込むときにも、第二側部フラップ３４を山折りに折り曲げることで、第二支持部５２を第二差込口４２に差し込み易くなる。

【００４１】

本実施形態の包装箱１では、図３に示すように、前部フラップ３１の両側縁部によって両側壁１３，１４の内面および傾斜壁１６の内面が支持されるため、胴部１０の形状を維持することができる。

【００４２】

本実施形態の包装箱１では、図１に示すように、前後の端壁１１，１２の外面および左右の側壁１３，１４の外面に加えて、両傾斜壁１６，１６の外面にも商品情報を印刷でき

る。これにより、包装箱１を売り場に並べたときに、顧客は前後左右および斜めの方向から商品情報を明確に視認できる。したがって、本実施形態の包装箱１では内部に収容した商品を有効にアピールできる。

【００４３】

本実施形態の包装箱１では、胴部１０の角部に傾斜壁１６が設けられている。つまり、本実施形態の包装箱１は、直方体の箱体の角部を傾斜させた形状である。このような包装箱１では、前後方向および左右方向の全長が同じ長さの直方体の箱体に比べて、シートの面積を小さくすることができる。

【００４４】

以上、本発明の実施形態について説明したが、本発明は前記実施形態に限定されることなく、その趣旨を逸脱しない範囲で適宜に変更が可能である。

本実施形態では、図１に示す包装箱１の上蓋部３０に本発明を適用しているが、包装箱１の下蓋部に本発明を適用してもよい。

【００４５】

前部フラップ３１の第一差込口４１および第二差込口４２の形状や第一側部フラップ３３の第一支持部５１および第二側部フラップ３４の第二支持部５２の形状は限定されるものではない。

【００４６】

本実施形態の包装箱１では、前部フラップ３１の先端縁部と後部フラップ３２の先端縁部とが間隔を空けて配置されているが、前部フラップ３１の先端縁部と後部フラップ３２の先端縁部とを突き合わせてもよい。

【００４７】

本発明の包装箱では、端壁、側壁および傾斜壁の幅や高さは限定されるものではない。また、傾斜壁の数も限定されるものではない。また、端壁および側壁に対する傾斜壁の傾斜角度も限定されるものではない。

例えば、本実施形態の包装箱１において、両端壁１１，１２、両側壁１３，１４および各傾斜壁１６を同じ幅に形成して、胴部１０を正六角形に形成してもよい。

【００４８】

本実施形態の包装箱１は、胴部１０が六角筒状に形成されているが、胴部１０の角数は限定されるものではない。例えば、胴部を四角筒状、五角筒状、八角筒状などの多角筒状に形成してもよい。

【００４９】

本実施形態の包装箱１は段ボール製であるが、各種公知の板紙によって本発明の包装箱を形成できる。

【符号の説明】

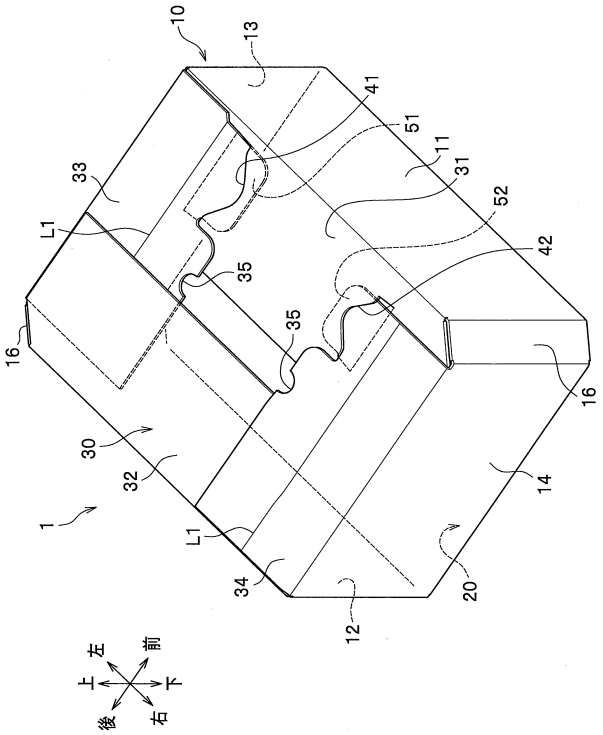
【００５０】

１　包装箱
１０　胴部
１１　前側の端壁
１２　後側の端壁
１３　左側の側壁
１４　右側の側壁
１５　接合片
１６　傾斜壁
２０　下蓋部
２１　内フラップ
２２　外フラップ
３０　上蓋部
３１　前部フラップ
３２　後部フラップ

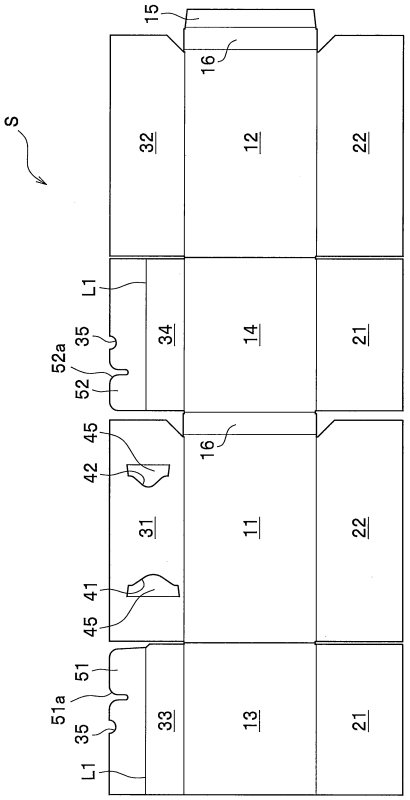
３３　第一側部フラップ
３４　第二側部フラップ
３５　指掛け部
４１　第一差込口
４２　第二差込口
４５　蓋板
５１　第一支持部
５２　第二支持部
Ｓ　ブランクシート

【図面】

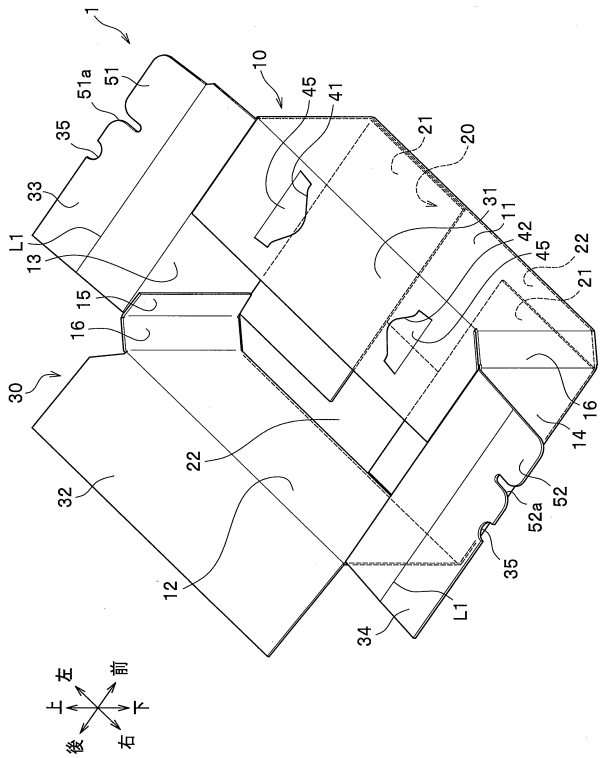
【図１】



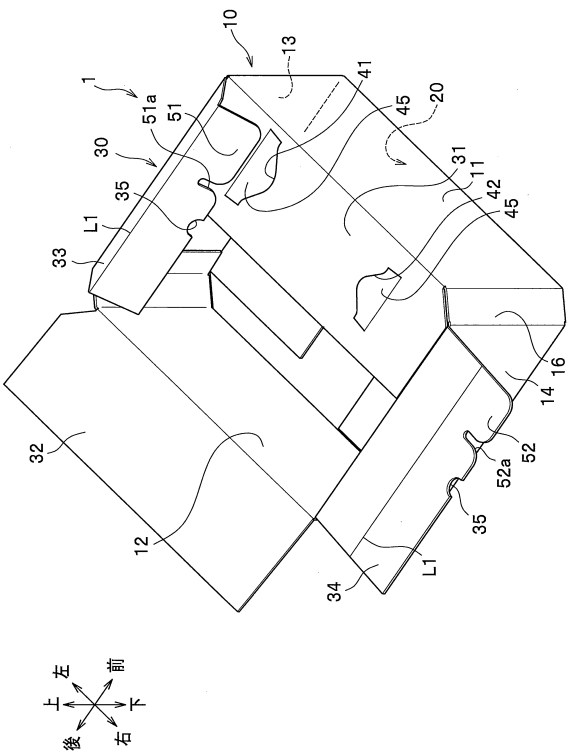
【図２】



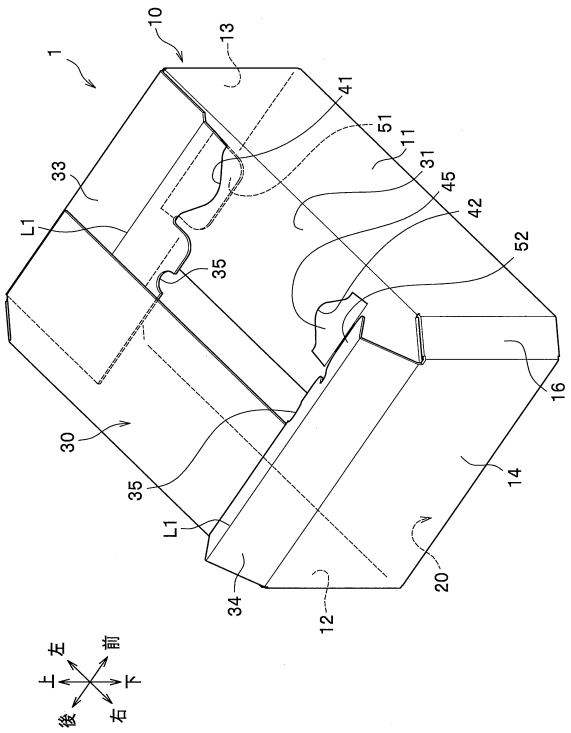
【図３】


1
10
45
41
21
20
31
11
42
45
22
21
51a
51
35
33
L1
13
15
16
30
22
32
12
34
L1
35
52a
52
14
16
上
左
前
後
右
下

【図４】


10
13
41
1
51a
51
45
20
30
31
11
35
L1
42
45
33
16
14
32
52
52a
12
35
34
L1
上
左
前
後
右
下

【図５】


10
13
1
41
51
11
31
33
45
42
L1
52
35
16
30
14
35
L1
20
34
12
上
左
前
後
右
下

フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００３－２３１５１９（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－３２６９５４（ＪＰ，Ａ）
特開２０１９－１０４５２２（ＪＰ，Ａ）
特開２００５－３４３５４２（ＪＰ，Ａ）
米国特許第３６５５１１６（ＵＳ，Ａ）

(58)調査した分野 (Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ　５／６６
Ｂ６５Ｄ　５／１０